

001

MAR
2013

とわだじかん

ArtsTowada

TOWADA TIMES

八甲田の空行く雲や奥入瀬を流れる水のように気ままに成り行き任せの旅をする



高橋匡太「いろとりどりのかけら」 ©Mitsutaka Kitamura

とわだじかんは「美術館を見学後、十和田を旅する」ための情報紙です。

01
ART
「美術館」と「まち」を
「アート」でつなぐ

02
FOOD
ここ・これ ごはん
美術館周辺編

03
SOURVENIR
ものづくりとわだ

04
TRIP
とっておきのとわだの旅
のどかであったかい風景を求めて、郊外へ

とわだでどう過ごしましょう？

せっかく十和田にいらっしやったのですから、
ゆっくりとした時間の流れに身を任せて、
気ままに、思うままに。
とわだを楽しんでください。

美術館だけなんてもったいない。

私たちコンシェルジュは、みなさんが美術館や十和田のまちなかへ訪れてもらえるように、そしてまた十和田に戻ってきたいと思ってもらえるように、日々取り組んでいます。
たくさんの方とお話しをさせて頂く中で、共通のニーズが明確になってきました。
それは、「もっと十和田を楽しみたい!」ということです。
そういった要望を中心に、「十和田を楽しめる情報」を、ほんの一部ではありますが集め、情報誌「とわだじかん」を発行しました。



十和田市現代美術館
コンシェルジュ 土井太陽

「美術館」と「まち」を「アート」でつなぐ

企画展では、まちなかにも作品が! 「まちなか展示」を振り返る



チェ・ジョンファ OK!

チェ・ジョンファは、韓国の現代アート界を代表するアーティストです。チェさんは、芸術や文化は限られた人々のものではなく見る者だれにでも開かれているということを貫いて訴え続けています。開館1周年記念となるこの展覧会では、美術館のほか、商店街を含めたまちなか15箇所で開催が行われました。まちのどこにどんな作品を展開するか、チェさんが商店街を歩き、語らい、銭湯でお年寄りと一緒に朝湯につかり、まちの人と絆を深めながら構想されていきました。



SUMOAURA
相撲・オーラ

日本の国技「相撲」を現代アートの切り口で構成展示した、現代アート作家5人によるグループ展です。十和田市相撲場で

は参加作家KOSUGE1-16による「どんどこ! 巨大紙相撲十和田場所」が開催、大人から子供まで盛り上がりました。また柴川敏之による「MAWASHIプロジェクト」は、柴川作品のほか、お店(約60店)の商品等に「まわし」をつけ力士に変身させたもの。店内で力士を発見する楽しさに加え、裏ストーリー〈大横綱「駒の花」(フラワー・ホース)の一生〉も隠されているなどユーモア溢れる展覧会となりました。



Arts Towada
グランドオープン記念展
草間彌生 十和田でうたう

草間彌生は、現在もっとも国際的に注目される現代アーティストの一人です。美術館のみならず中心商店街全体にも作品を展開し、十和田のまちは草間さんの力強く鮮やかな世界で彩られました。“米澤家具センター”には、「宇宙の中の水玉かぼちゃ」や草間前衛ファッション写真などを展示。“田清第一店舗”では、映像作品が流されました。また商店

街全体(約60店)を水玉で飾った「ドッツシールプロジェクト」が話題となりました。



マイケル・リン
ミングリング -ふれあい-

伝統的・文化的モチーフを使い、空間の建築的特徴や場所の関連性を読み込んだ作品制作を続けるマイケル・リン。この展覧会は、彼が十和田滞在中に興味を抱いた、中心商店街にある“ふれあいホール(Mingling Space)”からインスピレーションを得て構成され、地域の方々との協働作業でつくられたパッチワーク作品を中心に展開されました。また“ふれあいホール”の壁全体が作品に。さらに商店街では、リンさんのデザインによる包装紙や紙袋でのラッピングサービスを行いました。

加藤久仁生展 静かに温かい、ひとかけらの物語。

2009年「つみきのいえ」で米国アカデミー賞短編アニメーション賞を獲得した加藤久仁生の作品世界を紹介。「つみきのいえ」が生まれたきっかけのスケッチや絵コンテ、さらには同名のベストセラー絵本の原画を展示した展覧会になり

ました。まちなかでは「つみきのいえ」をはじめとした、加藤さんの世界から、それぞれのお店が発想したスペシャルメニューや、品ぞろえ、展覧会期間限定サービスが提供されました。

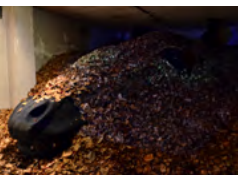


奈良美智 青い森の ちいさなちいさな おうち



栗林隆 WATER >|< WASSER
栗林隆の日本初個展。「水」をテーマに、大規模な新作イン

スタレーション4点を中心とし、美術館とまちなかでの展開により多様な表現を可能としました。栗林さんは一貫して人間と自然の関係性を表現の主題とし、「境界」をテーマに作品を展開してきました。東日本大震災を経て、私たちの自然に対する考えは一変しました。栗林さんの作品を通して、人間の根源的な感性や、環境に対する思いをあらためて感じることにになりました。まちなか会場(3箇所)となった“松本茶舗地下室”には、インスタレーション「inseln chahou 2012」が展示されました。



奈良美智 青い森の ちいさなちいさな おうち
青い森のちいさな美術部員によるまちなか展覧会「森をぬけて。」

国際的に活躍する青森県出身の美術作家 奈良美智の個展と連動して、「青い森のちいさな美術部」と題するプロジェクトを実施しました。公募で選ばれた若いアーティスト6名(マネージャー2名)が、奈良部長と顧問の藤浩志(美術館副館長・アーティスト)との市内合宿を通して作品を制作。まちなか展覧会が中心商店街5箇所を使って開催されました。

ここ・これ ごはん 美術館周辺編

美術館スタッフ＆ボランティア 推薦!

十和田は青森県有数の野菜の生産地。奥入瀬ガーリックポークや十和田湖和牛、ひめますなど、おいしい食材の宝庫です! せっかく十和田に来たのなら、地元の食材や調理法にこだわった料理を味わってみては。 マップはp4-5を参照

1
とうてつ 駅そば
そば・うどん
MAP C-4 美術館から徒歩10分

長年、十和田観光電鉄十和田市駅舎で営業されてきましたが、平成24年に鉄道が廃止され、本社のあるこの場所に移転。駅そばは、地元人にとって故郷の味。おすすめは「スペシャルそば(天ぷら・生卵・山菜)」390円と「半カレー」250円。
時間 7:00~19:00 休 無休
TEL 0176-23-5152 駐車場 あり

2
ハピたのかふえ
コミュニティカフェ
MAP B-3 美術館から徒歩10分

農家さんから仕入れた新鮮野菜を使用して、野菜ソムリエと考えたメニューが人気。中でも、旬な野菜で彩られた「十和田産長芋ふわっふわ!ハンバーグ 800円(※ランチセット)」は、すりおろした長芋をつなぎに使用。女性におすすめ!
時間 11:00~18:00 (L.O.16:00) 休 日曜・祝日
TEL 0176-23-0853 (ビル4階) 駐車場 あり

3
cafe orta
カフェオルタ カフェ
MAP B-4 美術館から徒歩10分

女性に人気の農園カフェレストラン。地元産の自然派食材を使った「キッシュセット」590円や「日替わりバスタランチ」750円が人気。季節の手づくりスイーツもお楽しみください。
時間 ランチ12:00~16:00 ※ディナー18:00~22:00 (L.O.21:00) 休 毎週月曜日、毎月第3火曜日
TEL 0176-25-0185 駐車場 あり

4
セレクトショップ Sakura156内・キッチンコーナー
ベーグル
MAP B-3 美術館から徒歩5分

地元食材にこだわったテイクアウトメニューを提供。「奥入瀬地鶏の照り焼きサンド」420円、手軽にビタミン補給「にんじんリンゴジュース」250円。テイクアウトできるので、時間がない方にもおすすめです。
時間 平日12:00~17:30 / 土日祝11:30~17:30 休 毎週火曜日 TEL 0176-58-6332 駐車場 あり

5
カフェ ミルマウンテン
カフェ&雑貨店
MAP C-4 美術館から徒歩15分

築100年の廃屋を改築した木のぬくもりが感じられるお店。まち歩きに疲れたらひとやすみにどうぞ。小腹がすいたら「スイートメルト・パンケーキ」500円、マフィンや自家製季節のスイーツも人気。衣類やかわいい雑貨販売も行っています。
時間 11:30~20:00 (L.O.19:30) 休 月曜日
TEL 0176-22-1878 駐車場 あり

11
Live Space ハミング・バードII
ライブハウス
MAP B-4 美術館から徒歩10分



中心商店街のアーケードを歩いていると「向かうところ客なし」という何とも自虐的なフレーズが目につく看板が。地元の音楽好きが集う店。定期的に有名歌手のバックバンドのメンバーや実力派シンガーがプレイしています。ステージと客席がとても身近で、アットホームな雰囲気。ライブがない日は70年代のロックが流れています。アルコールの他、フードメニューもあります。

6
バラ焼き大衆食堂 司
バラ焼き・そば
MAP B-3 美術館から徒歩5分

B-1でおなじみの十和田バラ焼きゼミナール監修のお店。下味のついたバラ肉と大量のたまねぎを炒める鉄板料理。市内80店舗以上の飲食店で提供。「十和田バラ焼きランチ」700円は、レクチャーを受けながら自分で調理。お店の人との会話も楽しめて。
時間 平日7:30~14:30 (L.O.14:00)・17:30~23:00 (L.O.22:30) / 土日祝7:30~23:00 (L.O.22:30) 休 月曜日 TEL 080-6059-8015 駐車場 あり

7
とんかつ TONTON
とんかつ
MAP B-3 美術館から徒歩1分

美術館すぐそば。トンカツ好きはお試しあれ。「奥入瀬ガーリックポークのミルフィユ豚カツサンド」1,600円。柔らかく甘みがあるのが特徴の奥入瀬ガーリックポークを堪能できます。
時間 ランチ11:30~14:00 ※日曜・祝日は14:30まで / ディナー17:30~19:30 休 不定休
TEL 0176-25-3132 駐車場 あり

8
レストラン仏蘭西屋
洋食
MAP B-3 美術館から徒歩5分

地元人から愛される洋食屋さん。たっぷりと敷き詰められたキノコの上に、ごろごろとウニがちりばめられた贅沢ソースでいただくふりぶりのホタテは絶品!「ホタテのウニソース焼き」1,550円。喫茶も充実。
TEL 0176-22-5908 時間 11:00~20:30 休 毎週月曜日、毎月第2火曜日 駐車場 あり

9
馬肉料理 吉兆
馬肉料理・郷土料理
MAP C-3 美術館から徒歩15分

十和田では、馬肉はポピュラーな食材。馬肉鍋も人気ですが、湯豆腐と焼肉が同時にできる「義経鍋」一人前1,365円(※写真は二人前)もおすすめです。余分な油は鉄板の下に流れ落ちるのでヘルシー。また馬肉は鉄分豊富なので、女性にもピッタリです。
時間 11:00~14:00 / 17:00~22:00 休 日曜日 TEL 0176-24-9711 駐車場 あり

10
与作
焼肉&ラーメン
MAP B-4 美術館から徒歩15分

飲み屋街帰りの地元人に人気。飲んだ後の〆(しめ)の1杯、深夜の「カツカレーラーメン」900円。揚げたてのトンカツは、アツアツ!サクサク!自家製の細麺にカレースープがよく絡みます。
TEL 0176-22-6265 時間 18:00~翌3:00 休 月曜日 駐車場 あり

時間 19:00~翌1:00 休 不定休 TEL 0176-23-2300 駐車場 なし



十和田市現代美術館周辺 まちなかMAP

とわだへようこそ

かわいいもの おいしいものを探しに

まち歩き

美術館や官庁街通りでアートを鑑賞したあとは
中心商店街へ行ってみよう。

旅の情報収集

1 Art Station Towada
アートステーショントワダ
MAP B-3 美術館から徒歩5分



美術館近くにある十和田市の観光案内所。市内や奥入瀬・十和田湖観光に役立つパンフレットなどが置かれていて、観光相談にも応じてくれます。休憩スペースもあるので、気軽に立ち寄ってみては。
【期間】9:00～19:00 【休】1月1日
TEL 0176-58-6707 駐車場あり

おみやげ

2 とわだセレクトショップ
sakura156



Art Station towadaにあるみやげ店。お菓子や地酒、南部裂織やきみがらスリッパなど、十和田のみやげ物が豊富に揃う。おすすめは、西洋野菜のチコリを使ったお菓子やスイーツ。オリジナルジェラートも人気です。
【期間】9:30～19:00 【休】1月1日
TEL 0176-58-6332

文化施設

十和田市は、新渡戸稲造の祖父・傳(つとむ)、父・十次郎をはじめとする先人により人工の川「稻生川」が造られ、新しく拓かれた街です。碁盤の目状の街並みは十次郎の都市計画によるもので、「近代都市計画のルーツ」と言われています。

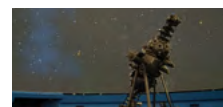
1 十和田市立新渡戸記念館
MAP B-5 美術館から徒歩15分



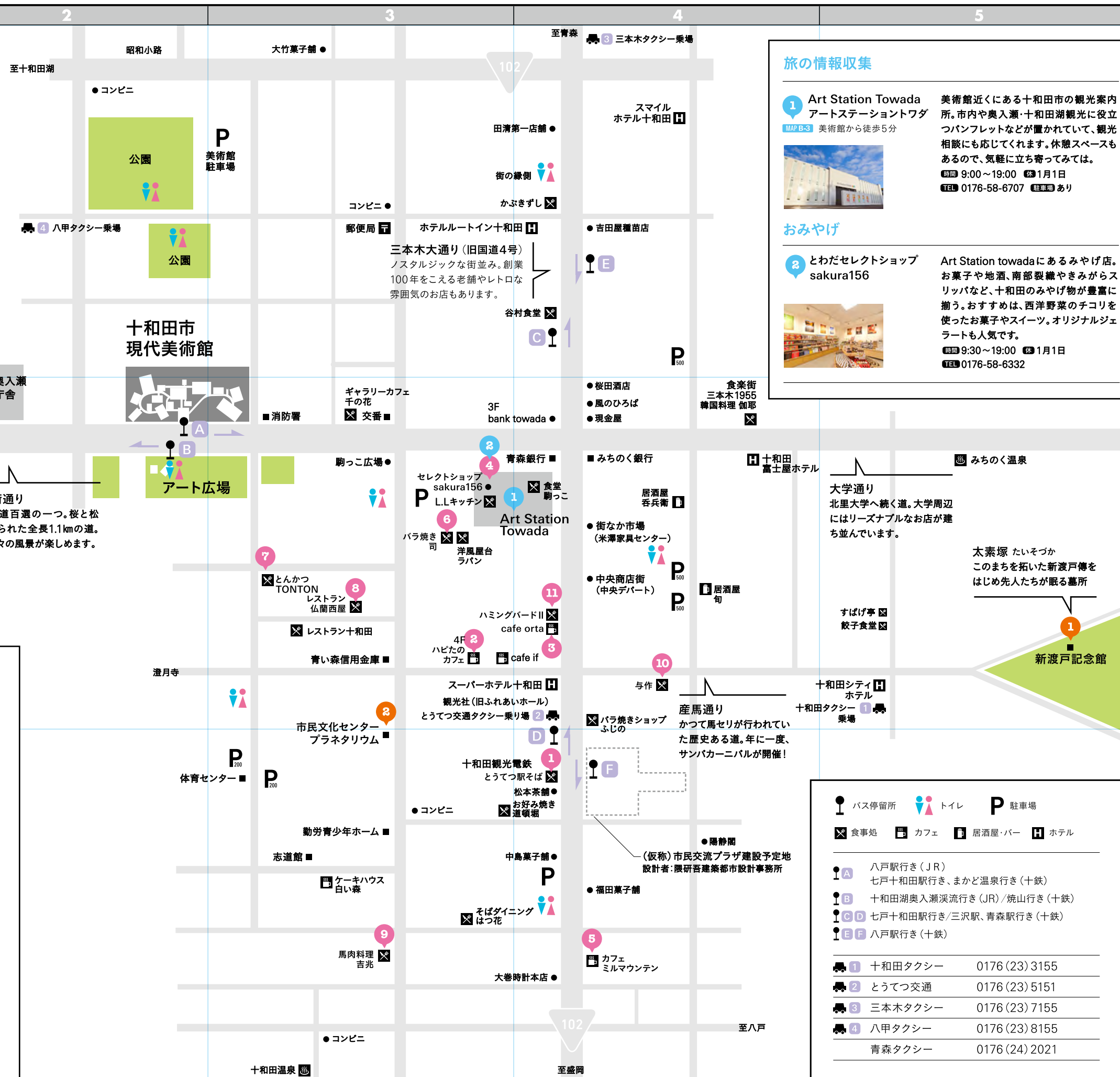
photo: 十和田市立新渡戸記念館

まちのルーツである三本木原開拓の資料や開拓道具、国際親善に大きな足跡を残した新渡戸稲造の遺品が展示されています。イサム・ノグチ作の『新渡戸稲造博士顔像』も必見です。
【料金】大学生・一般 210円 小・中・高校生 52円
【期間】9:00～16:00 【休】月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)・年末年始
TEL 0176-23-4430 駐車場あり

2 十和田市民文化センター
プラネタリウム
MAP C-3 美術館から徒歩5分



季節の星空の物語を楽しめます。
【料金】大人・大学生 210円 高校生 157円 3歳以上中学生まで 52円。【期間】土日祝日 9:30, 11:00, 13:30, 15:00 春・夏・冬 休みの平日 11:00, 15:00 投影時間は約40分 【休】月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)・年末年始
TEL 0176-22-5200



バス停留所 トイレ 駐車場
食事処 カフェ 居酒屋・バー ホテル

A 八戸駅行き(JR)
七戸十和田駅行き、まかど温泉行き(十鉄)
B 十和田湖奥入瀬溪流行き(JR)/焼山行き(十鉄)
C,D 七戸十和田駅行き/三沢駅、青森駅行き(十鉄)
E,F 八戸駅行き(十鉄)

1 十和田タクシー	0176(23)3155
2 とうてつ交通	0176(23)5151
3 三本木タクシー	0176(23)7155
4 八甲タクシー	0176(23)8155
青森タクシー	0176(24)2021

ものづくりとわだ

十和田の魅力がぎゅっと詰まったお土産情報！ 大切な人におみやげを探すなら、職人・作家の思いが込められた自慢の逸品はいかが？ 長くつきあえるお気に入りが見つかるかも。

01

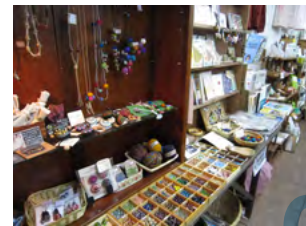
南部裂織保存会

TEL 0176-20-8700
URL <http://www.sakiori.jp/>

伝統工芸の普及と伝承を目的にした団体。南部裂織は、地機（じばた）に綿の糸をはり、古布を裂いて横糸にして織る、温もりのある織物。経糸（たていと）と緯糸（よこいと）の出会いによって現れる、絶妙な色合いは、他の染織工芸品にはみられない味わいがあります。伝統的な作品ばかりでなく、現代生活にマッチした商品も制作販売しています。



□商品取扱店：道の駅とわだ、匠工房 南部裂織の里、とわだセレクトショップsakura156 (Art Station Towada)、十和田市現代美術館ミュージアムショップ「アベロッサ」、十和田富士屋ホテル、松本茶舗、など。



風のひろば

TEL 0176-25-1811
URL <http://kazenohiroba.blogspot.jp/>

十和田のクラフト作家たちの手作り雑貨などを販売しているお店です。フェアトレードやエコ雑貨、オーガニック食品、地元の手づくり雑貨などが人気を集めています。インド製のガラスビーズも1個単位で購入できるので、オリジナルのアクセサリーを作ってみては。おみやげ探しにも最適です。

03

鳩正宗 株式会社

TEL 0176-23-0221
URL <http://www.hatomasa.jp/>

明治32年創業で、十和田市唯一の蔵元「鳩正宗」。名前は、昭和初期のある日、一羽の白鳩が蔵に舞い込み神棚に住みついたことから、当主がこの鳩を家の守り神として大切に飼い、死後も鳩神様として祀ったことに由来しています。杜氏の務めるのは、十和田市出身で南部杜氏の資格を持つ佐藤企さん。若いながらも自分の名前を冠した日本酒「佐藤企」があるほど。昔ながらの味を継承した「鳩正宗」や「八甲田おろし」などがおすすめです。



□商品取扱店：とわだセレクトショップsakura156 (Art Station Towada)、市内の酒販売店様、など。

十和田きみがらスリッパ生産組合

TEL 0176-51-6743

「きみ」とは青森の方言で「とうもろこし」を意味します。自然乾燥させた「きみ」の「から(果皮)」から作られるのが「きみがらスリッパ」。馬の名産地である十和田は、飼料用の「きみ」の栽培が盛んでしたが食用にはならない「から」は廃棄されていました。そこで、昭和22年に再利用策として作られたのがスリッパです。慣れた作り手でも1日1足がやっと。手間と時間をかけ、心を込めて編み込んでいます。裸足で履くのがオススメ。足に馴染みサラッとした履き心地を楽しめます。最新アイテム!! カラフルなスリッパも登場!!



□商品取扱店：とわだセレクトショップsakura156 (Art Station Towada)、道の駅とわだ、十和田市現代美術館ミュージアムショップ「アベロッサ」、はっち・ミュージアムショップ「カネイリ」

04



□商品取扱店：大竹菓子舗本店・各店

大竹菓子舗

TEL 0176-22-4715 (代表)
URL <http://www.ootake.net/>

2012年全国から選りすぐりのスイーツを集め開催された「第1回ご当地スイーツ選手権」において、人気投票で1位を獲得し見事グランプリに輝いた人気のスイーツ「青森の魔女のとろ生チーズケーキ」。小麦粉を使用しないで、青森県十和田市産「まっしぐら」の米粉を100%使用して作られたふわふわなチーズケーキです。本店では自家製ジェラートも食べられます。



□商品取扱店：とわだセレクトショップsakura156 (Art Station Towada)、道の駅とわだ、イオンスーパーセンター十和田店・産直コーナー

05

株式会社 パワフルジャパン十和田

TEL 0176-27-6383
URL <http://www.pj-towada.jp/>

地元の農産物を全国へPRし、十和田市の活性化に取り組んでいます。日本でも有数の生産量を誇るニンニク、長芋、長ネギ、ごぼうのゆるキャラ「十和田ふぁみりーず」と共に活動し、加工品開発にも取り組んでいます。「ジュエリーピクルス」380円は十和田の十の字にちなんで十和田の農産物を中心に10種の野菜を1つの瓶に詰め込んだ欲張りなピクルスです。

とっておきの十和田の旅

のどかであったかい風景を求めて、郊外へ

忙しい日常から離れた、ゆったりとした田舎の休日。気分も足取りも軽く、鼻歌なんて歌いながら…。いつもなら見過ごしてしまう何かに出逢えるかも。

マップはp8を参照

ローカルスイーツ！

1

焼き菓子ギャラリー ぶちぶろう

十和田市中心部から車で約20分



「クリエイティブサポート〈ぶちぶろう〉」が展開している事業で、焼ききたパンやクッキー等、沢山の種類のお菓子を製造。工房に隣接の「珈琲館 ぱびっと」では、挽き立てのコーヒーやケーキ、軽食を提供。シフォンケーキは、ふわっふわで美味しいと評判です。のんびりとくつろげる穴場です。

時間 9:00～16:00 (休) 月曜日・年末年始
TEL 0176-26-2457

2

農アイス

南部バス/十和田市中央バス停からバスで約15分



匠工房にある、農家の人たちが作った「農アイス」売店。コーンとワッフルの2種類で、「まっしぐら」というお米と「おおすず」という大豆(豆乳)のソフトクリームが選べます。旬の野菜や果物をソースやトッピングにしているので、その時期の「十和田の美味しい」が楽しめます。

時間 9:00～16:00 (休) 月曜日・年末年始
TEL 0176-28-3790

3

手づくり村 鯉艸郷

十和田市中心部から車で約20分



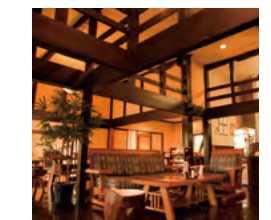
昔懐かしい農村風景 体験型の観光農園。花菖蒲園を中心に芍薬・ルピナスなど四季の花々に出会えます。うさぎ小屋や水車小屋、山野草を観察できる遊歩道もあり、散策にもうってつけ。古い茅葺民家では囲炉裏を囲んでの「手打ち水車そば」や「わっぱとりめし定食」など、地元＆園内食材を使用したランチが楽しめます。

時間 9:00～17:00 (休) 4月下旬～8月上旬(定休日なし)、8月中旬～10月下旬(要予約)、11月～4月中旬(冬季間休業) TEL 0176-27-2516 時季により異なるが～500円

4

農園カフェ 日々木

十和田市中心部から車で約15分



静かな時間の流れる場所 築50年以上の古民家をモダンに再生した落ち着いた雰囲気の中で、野菜ソムリエが厳選した十和田産野菜中心のヘルシーな料理が提供されています。テーブル席や座敷席のほかに縁側席もあり、田舎のおばあちゃん家きた気分。ブルーベリー農園もあり収穫時期である7・8月には、ブルーベリー狩りも体験できます。

時間 4月～11月 11:00～16:00 / 12月～3月 11:00～15:00 (休) 水曜日、年末年始・お盆休み有り
TEL 0176-27-6626

5

道の駅とわだ 匠工房

南部バス/十和田市中央バス停からバスで約20分



大切に受け継がれてきた工芸品 青森県の伝統工芸品「南部裂織」を体験することができる施設。機に座って、機の動かし方を先生に教えてもらいましょう。初心者コースは、約1時間で幅20cm、長さ25cmのテーブルセンターを織ります。個人の場合、随時体験可能。グループの場合は事前に要問合せ。旅の途中に立ち寄ってみてはいかが？

時間 10:00～16:00 体験時間10:00～15:00 (受付終了14:45) (休) 月曜日・年末年始 TEL 0176-20-8700 体験料1,500円～

とわだの癒しスポット

十和田市には、八甲田の大自然に囲まれた温泉地はもちろん、美術館からちょっと足を伸ばすと日帰り入浴できる温泉施設(公衆浴場)がいくつかあります。今回は、その中の一つをご紹介します。

6

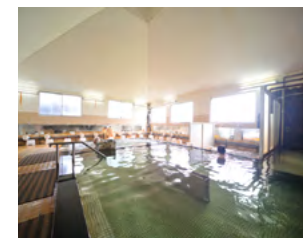
ポニー温泉

弱アルカリ性単純泉 美術館前から焼山行きのバスで約10分

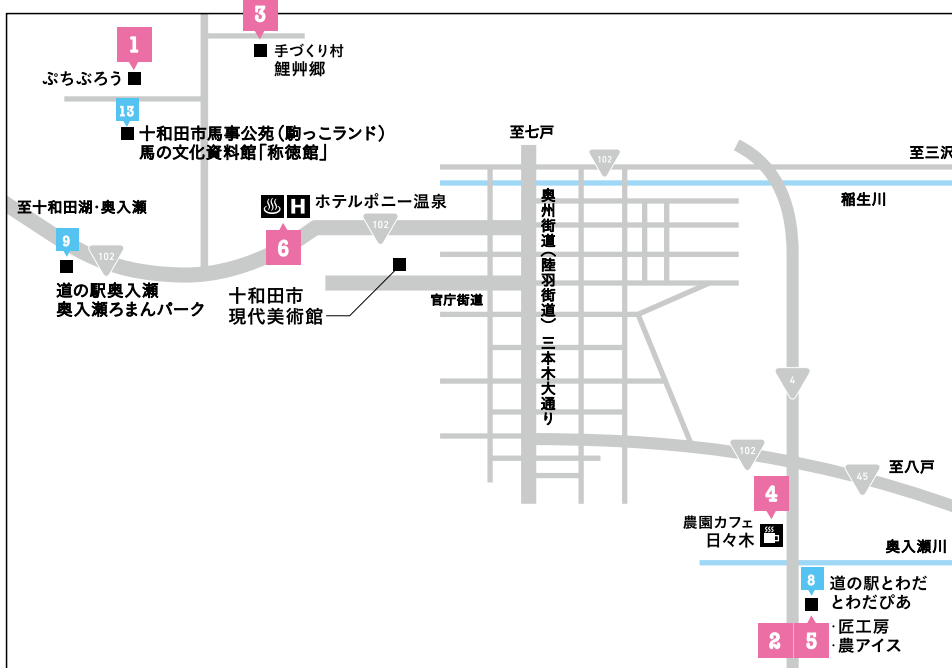
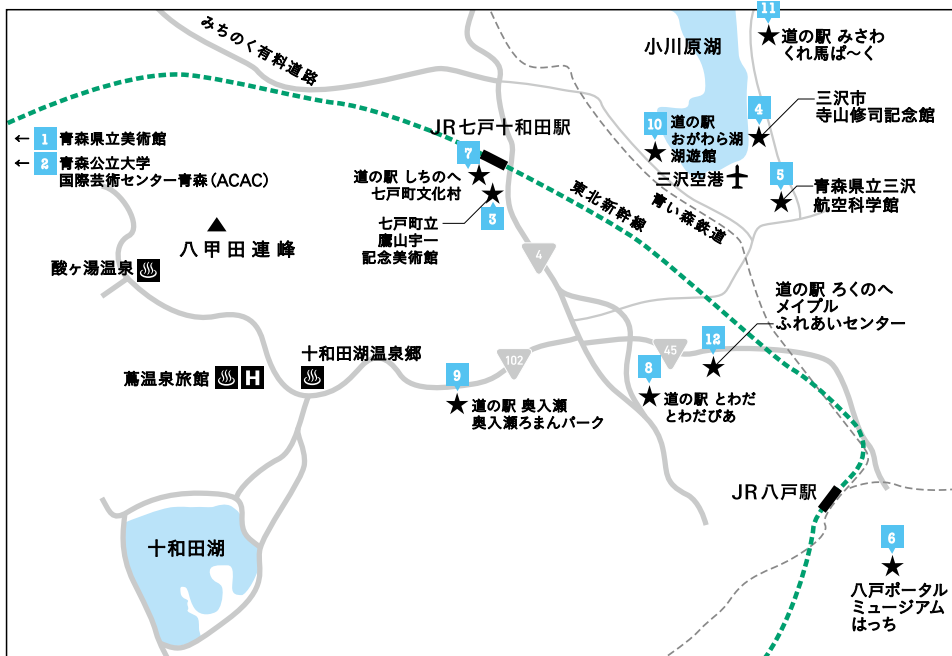
青森県は人口10万人あたりの公衆浴場数が日本一。早寝早起きも日本一。朝風呂文化があるためか、公衆浴場は早朝営業。旅の疲れを癒すのに温泉はいかが？

馬産地・十和田ならではの名称。ホテルポニー温泉内の大浴場が入浴可能で、美容液のようなトロトロのお湯が特徴的。サウナ、ラジウム岩盤浴、露天風呂(別料金)あり。ロッカーあり。

料金 大人350円 小学150円 幼児60円 時間 5:00～22:00 (休) 無休 TEL 0176-23-4836



※露天風呂は宿泊者のみ利用可能。



十和田市美術館からのアクセス

奥入瀬渓流(焼山)へ
美術館前→バスで約50分/車で約20分→奥入瀬渓流(石ヶ戸)
十和田湖へ
美術館前→バスで約1時間35分/車で約1時間→十和田湖(休屋)
七戸十和田駅へ
美術館前or官庁街通→バスで約40分/車で約20分→七戸十和田駅
八戸駅へ
美術館前→バスで約40分/車で約40分→八戸駅
官庁街通or十和田市中央バス停→バスで約1時間10分→八戸駅
官庁街通or十和田市中央バス停→バスで約30分→三沢駅
→電車で約20分→八戸駅
七戸町立鷹山宇一記念美術館へ TEL 0176-62-5858
現代美術館前or官庁街通→バスで約40分→七戸文化村前
三沢市寺山修司記念館へ TEL 0176-59-3434
官庁街通→バスで約30分→三沢駅→車で約15分→寺山修司記念館
青森県立美術館へ TEL 017-783-3000
現代美術館前→バスで約40分→七戸十和田駅→
新幹線で約15分→新青森駅→バスで約10分→県立美術館前 ほか

- 1 青森県立美術館 TEL 017-783-3000
- 2 青森公立大学 国際芸術センター青森 (ACAC) TEL 017-764-5200
- 3 七戸町立鷹山宇一記念美術館 TEL 0176-62-5858
- 4 三沢市寺山修司記念館 TEL 0176-59-3434
- 5 青森県立三沢航空科学館 TEL 0176-50-7777
- 6 八戸ポータルミュージアムはっち TEL 0178-22-8228
- 7 道の駅しちのへ 七戸町文化村 TEL 0176-62-5777
- 8 道の駅とわだ とわだびあ TEL 0176-28-3790
(匠工房、農アイス)
- 9 道の駅奥入瀬 ろまんパーク TEL 0176-72-3201
- 10 道の駅おがわら湖 湖遊館 TEL 0176-58-1122
- 11 道の駅みさわ くれ馬ば〜く TEL 0176-59-2711
- 12 道の駅ろくのへ メイプルふれあいセンター TEL 0176-55-4134
- 13 十和田市馬事公苑(駒こランド)
馬の文化資料館「称徳館」 TEL 0176-26-2100

十和田市現代美術館 企画展スケジュール
2013.4.27 [土] ~ 2013.9.8 [日]
ArtsTowada 十和田市現代美術館開館5周年記念展 vol.1
flowers フラワーズ

お問い合わせ先 十和田市現代美術館 青森県十和田市西二番町10-9 TEL 0176-20-1127
info@towadaartcenter.com http://towadaartcenter.com/ http://www.facebook.com/artstowada
発行:十和田市現代美術館 コンシェルジュ アートディレクション&デザイン:加藤寛策(東京ビストル)

表紙:高橋匡太「いろとりどりのかけら」
美術館を照らす照明の作品。日没時刻から21時の間、外からご覧いただけます。また四季折々、イベントごとに色の変化が楽しめます。

常設展示作家シリーズ① 時間別に楽しむ美術館

夜の美術館を美しく光で彩る「いろとりどりのかけら」の作者の高橋匡太さんにお話を伺いました。

——早いもので2013年で美術館は開館5周年を迎えます。常設作品はコミッション・ワークという形態をとっています。高橋さんがプランを考えられたときは、美術館の設計がすすんでいる段階でした。

思い出すと、西沢立衛さんの建築設計がありきてしたね。何度も設計者と対話をしながら考えた作品です。美術館の特徴は「アートのための家」としてキューブ状の建物が展開されているというものです。建築がキューブなら、アートはそれを面で解体し、再構築しなおすようなことができないかと考えました。これが作品としての骨格です。西沢さんもおもしろがってくれました。ぼくの作品は「アートのための家」の住人ではない形で参加ということになります。

ぼくは美術館自体がまちへのプレゼントのような存在になればいいなと考えていました。地域の方は一年を通して作品をみることになるので、どう変化をつけるかということはおもひ一つの作品のテーマでした。地域の方とお話をしていると、季節のきざしを自然から感じとる力が長けていると感じたんです。虫がなだすと秋を感じたりするようなことですね。生活の中で作品がそういう存在になればいいかと思い、光の演出は四季に応じて変わるようにしています。色の移りかわりも、水のゆらぎや花のゆらめきといった、自然の不規則な動きやリズムを分割してプログラムに取り入れています。はじめての挑戦でしたので試行錯誤の連続でした。現場作業も大変でしたね。1月から3月まで月の半分は十和田に滞在し、屋外にテントを張って実験を繰り返しました。寒かったです。コンピュータの中だけでプログラムをつくっていくと、ネオンサインのように目をひく演出にいきがちになりますが、そうではない映像に近いような新しい光の在り方を模索しています。

——作品を眺めていると、私たち人間や自然の息づかいと呼応するような感じがします。とくに冬は光がきれいに見えますね。

空気が澄んでいて雪の世界ですから、ほかでみたことがないくらいきれいですね。春のプログラムは桜をモチーフにしていますし、季節毎に楽しんでもいただけることを意識しています。光の作品のおもしろいところは、将来にわたってプログラムをアップデートし、演出を変えられることです。実現はしていませんが、開館5周年に新しい表情をお見せしたいなと思っています。

——開館5周年記念展 vol.1《flowers》展では新作を出展されますね。

作品を構想するとき、花がテーマということで、だれのアルバムの中にも必ずある花の写真を使うことを考えました。自分が大事に思っていることを、ほかの人も同じように大切に思っていることってありますよね。日常の一コマがかけがえのない美しいものであるということ、映像と光のインスタレーションとして表現したいと思っています。思い出のようなものがたくさん集まることで、みなさんの記憶を作品化していく。展覧会を見終わった後、特別な日がいいたくなくて、春がきて花が咲いて、そういう美しい日常があるということを感じることが、アートにつながっていくのではないのでしょうか。



高橋 匡太(たかはし きょうた)
1970年京都府生まれ。1995年京都市立芸術大学美術研究科彫刻専攻 修了。光や映像を用い、大空間をドラマチックに変貌させる作品を多数制作。また音楽やダンスなどさまざまなメディアとのコラボレーションも積極的に行い、日本のみならず海外でも精力的に活動している。